

# SYMPOSIUM開催

# Translational and Regulatory Sciences

A M E D 創薬

総合支援事業に  
平成29年に採択  
されたキャタリ  
ストユニット

(代表機関・東  
京大学大学院農  
学生命科学研究  
科)は、「Trans  
lational and Regu  
latory Sciences S  
ymposium」を

2月7日、東京  
大学弥生講堂一  
条ホール(東京  
都文京区弥生)  
において開催し  
たII写真。

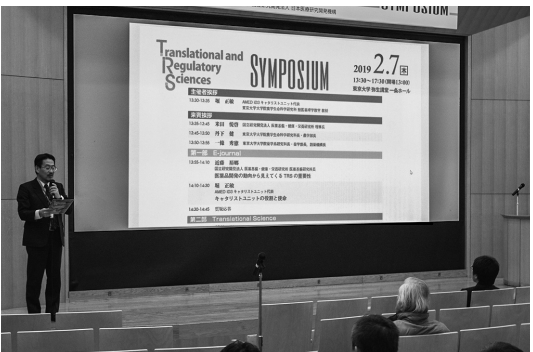
同ユニットは  
トランスレーシ  
ヨナルサイエン  
ス(TRS)およ  
びレギュラトリ

ーサイエンス  
(RS)に焦点  
をあてた英文オ  
ンラインジャー  
ナル「Translati  
on and Regulatory  
Sciences (TRS  
)」の刊行を

今年8月に予定  
している。シン  
ポジウムは同ジ  
ャーナルのキッ  
クオフシンポジ

ウムとして開催され、TRS  
の目的や目標、両分野の  
研究事例紹介などが行われ  
た。

同ユニット代表の堀正敏  
教授は、「TRSは特定の  
学会の学会誌ではありませ  
ん。我々の使命は責任重大  
で、おそらくオールジャパ



ンでTRSの発行、発展は  
サポートしていかなければ  
なりません。近い将来、T  
RSが日本の本分野をリー  
ドできるジャーナルにして  
いきたいと考えています」と  
述べた。

同ユニットは、多様化す  
る医薬品とその開発技術を  
実用化に結びつけるための  
TRSとRSの協調と振興を  
目指し、AMED創薬支援  
ネットワークとの緊密な連  
携のもとで、国内外の情  
報発信拠点として活動して  
いる。TRSの刊行もその  
一環として行われる。

シンポジウムでは、TRS  
Sの編集委員長を務める米  
田悦啓所長(医薬基盤・健  
康・栄養研究所)も講演。

「試行錯誤はあると思いま  
すが、経験から、研究者の  
研究は基本的にはインパク  
トファクター(IF)では

評価できないと思います  
が、ジャーナルの評価は良  
い論文をいかにたくさん発  
表できるかということにか  
かっていますので、IFは  
きちんとキープする必要があります

あります。それを  
理解した上で進め  
なければいけない  
と思っています」と  
述べた。米田所  
長は日本細胞生物  
学会誌の完全英文  
電子ジャーナル化  
を主導し、同誌編  
集員長を務めた経  
歴がある。

TRSでは、論  
文は全て査読を経  
て掲載し、投稿論  
文と依頼論文、技  
術記事などを掲載。依頼論  
文については広く世界の著  
名な研究者等に執筆を依頼  
し、編集委員による討議等  
も記事として掲載。産学官  
の討議するプラットフォーム  
を構築していくという。

TRSの編集長は米田所  
長、副編集長は近藤裕郷氏  
(医薬基盤・健康・栄養研  
究所創薬デザイン研究セン  
ター・センター長)と堀教  
授が担当。編集委員は現在、

大学等研究機関の研究者を  
を含み、今後他の海外機関  
の有識者にも参加依頼して  
いく予定としている。